信長、豊臣兄弟と対峙した歴史を巡る

駆けゆく！

戦国の和歌山市

観光ガイド

最強
鉄砲集団
雑賀の里







独立した自治組織・惣国の戦い

織田・豊臣勢と相対した雑賀衆

戦国時代の紀伊国において、地理的・経済的に恵まれた紀の川筋は高野山・粉河寺・根来寺といった寺院の勢力が強く、戦国大名や領主が台頭することができませんでした。当時「雑賀」と呼ばれていた和歌山市周辺は農業の生産高が向上して商業なども発達したことから、同地域に住む国人と農民たちの共同体である「惣国」が発達し、高度に自治された独立国家のような土地だったのです。雑賀の「惣国」を構成した人々のうち、本願寺門徒など他国に出兵した人々が「雑賀衆」と呼ばれていました。そんな状況下で、雑賀衆や根来衆は新兵器の鉄砲をいち早く入手し、鉄砲隊を組織しました。日本への鉄砲伝来は天文12（1543）年といわれていますが、それから約10年で根来は鉄砲の有力な産地になり、雑賀衆にも鉄砲が伝えられたのです。壮大な紀伊の山の木材資源と海上交通路での水運による豊富な資金をもとに、やがて砲術にも長け、高度な軍事技術集団と化した雑賀衆は、自由を求め織田信長や羽柴秀吉の全国統一に激しく抵抗することになります。

生動する戦国の紀州



火縄銃
［個人蔵（和歌山市立博物館展示）］
紀州鉄砲鍛冶の七右衛門２代直正が正保４（1647）年に南蛮鉄を使い製作。製作年が明示されている紀州製のなかでは最も古い火縄銃です。



紀州に鉄砲をもたらせた

津田監物算長 つだけんもつかずなが

紀州小倉の有力者で根来寺杉之坊と縁戚関係にある津田監物算長は、種子島の領主・種子島時尭（ときたか）から鉄砲を一挺譲り受け、根来に帰ると当地の芝辻清右衛門に鉄砲を模作させたといいます。以来、近隣の粉河や雑賀にも鉄砲が普及していったと考えられています。雑賀衆は鉄砲の射撃技術を持った者が鉄砲を撃ち、そうでない者に玉込め、薬込めを任せ、連射を可能にしたと伝えられています。



津田流砲術伝書 自由斎流砲術伝書（つだりゅうほうじゅつでんしょ　じゆうさいりゅうほうじゅつでんしょ）［和歌山市立博物館蔵］
津田流は津田監物算長を祖とし、全国的にも古い砲術の一つ。算長の子である算正・自由斎が津田流砲術を後世に流布したと伝えられています。



雑賀五組の関係

雑賀衆は、雑賀荘・十ケ郷・宮郷（社家郷）・中郷・南郷の五組から構成。なかでも和歌山市和歌川以西の雑賀荘と十ケ郷には一向宗徒が多く、一揆の中心を担っていました。しかしこの五組は、時に協力し合うも一枚岩ではありませんでした。

紀伊国における主な戦国のできごと

1467年（応仁元） 応仁・文明の乱により紀伊国の守護・畠山氏が衰退

1486年（文明18） 本願寺蓮如により紀州に新しい宗教が広がる
紀の川河口部で自治組織である惣国がおこり雑賀衆が形成されていく

1543年（天文12） 種子島に鉄砲が伝来したとされる
雑賀衆は鉄砲などの武器を使いこなした武装集団へ成長する

1570年（元亀元） 石山合戦がはじまり本願寺の要請により雑賀衆は参戦していく

1576年（天正4） 雑賀衆は毛利水軍と連携し織田水軍に大きな打撃を与える

1577年（天正5） 織田信長の紀州攻め。小雑賀付近での激戦の末、雑賀衆を降伏させる

1580年（天正8） 本願寺顕如が石山を退去し雑賀鷺森へ向かう

和歌川河口から望む和歌の浦。
この夕陽を武将たちも見たかもしれません。

1582年（天正10） 本能寺の変で信長が討たれる

1585年（天正13） 3月、羽柴秀吉の紀州攻め。根来・雑賀を攻撃するため大坂を出陣
4月、秀吉は太田城を水攻めにし紀州を平定
弟・秀長に命じて和歌山城の築城を始める

戦国の紀州を平定した豊臣軍

秀吉、弟の秀長に築城を命ず

本能寺の変以降に勢力を拡大した羽柴（豊臣）秀吉は、紀州平定を成し遂げ、弟の秀長に岡山（虎伏山）の峰に築城を命じました。それが和歌山城の始まりです。秀吉にはこの城を四国攻めへの拠点とするほかに、紀淡海峡や紀の川の水上交通の掌握、反発する土豪勢力の抑制といった思惑があったようです。紀伊国の支配を任された秀長でしたが、自身は大和郡山城（奈良県大和郡山市）に移ったため、家臣の桑山重晴が城代となりました。城内には今もなお、築城当時の石垣が現存しています。



豊臣秀長

天文9（1540）年3月、尾張国愛知郡中村生まれと伝えられ、豊臣秀吉の3歳違いの弟にあたります。兄の補佐役として、政治と軍事の両面でその手腕を発揮し、秀吉を天下人に押し上げました。紀州攻めでは副将として活躍。後の四国攻めにおいては総大将として長曾我部氏を打ち破り、大和一国を付与。和泉・紀伊・大和の三国にまたがる約100万石を越える大名へと出世し、大納言に栄進しました。天正19（1591）年、大和郡山城で病死。享年52歳。



豊臣秀長像［大和郡山市指定文化財（春岳院所蔵）］



雑賀の古戦場を巡る

雑賀川（和歌川）周辺

雑賀攻めの主戦場で、川を挟んで織田軍と雑賀衆が対峙しました。戦は約1カ月続き、各所で雑賀衆によるゲリラ戦が展開されました。あらかじめ川の要所に逆茂木、桶、壺、槍先を沈めておき、人馬が足をとられている隙に鉄砲や弓矢で攻め、織田方の堀秀政隊に大損害を与えたとの描写がある文献もあります。また、雑賀衆側の川岸には、馬防柵を張り巡らし、織田方の進入を阻んだとも言われています。

和歌山市島崎町7丁目
アクセス／JR和歌山駅もしくは南海和歌山市駅から
和歌山バス「新堀橋」停下車、徒歩約2分　駐車場／なし

信長に挑むものたち

和歌山市南部

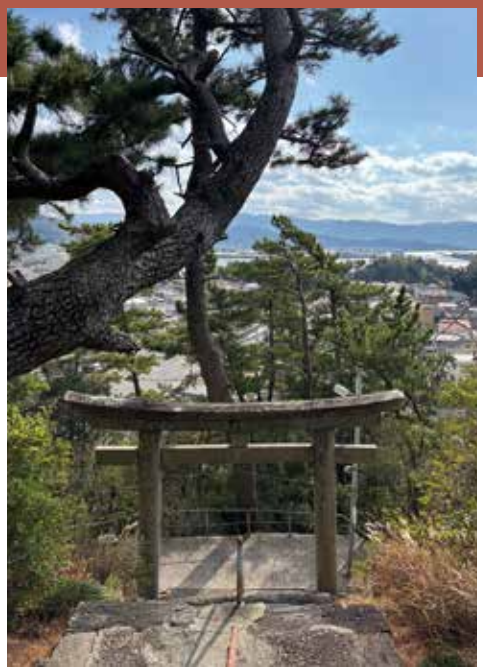
地の利と鉄砲を駆使した雑賀衆の活躍

15世紀後半、山科本願寺（現在の本願寺山科別院）の蓮如が紀伊国で浄土真宗を広めたことから、戦国時代の雑賀には多数の信者がいました。天正4（1576）年、本願寺を攻撃した織田信長勢に対して、雑賀衆は数千挺といわれる鉄砲で応戦。信長の足にけがを負わせたといわれるほどの激しい戦いとなりました。この戦いで雑賀衆の『鈴木孫一』は本願寺方の大将と呼ばれる活躍を見せました。信長は根来寺の僧兵の一部を味方につけ、天正5（1577）年2月、羽柴秀吉、明智光秀、堀秀政、滝川一益、丹羽長秀など数万の軍勢を率い、二手に分かれて雑賀攻めを敢行。中野城や小雑賀（和歌山市）で雑賀衆と信長軍の攻防戦が繰り広げられました。しかし信長の軍事力の前に、雑賀衆はいったん降伏を余儀なくされます。信長による雑賀攻撃は約10日間の戦闘を含めて約1カ月の在陣でしたが、雑賀衆に決定的な打撃を与えることはできなかったといいます。



織田信長朱印状［個人蔵（和歌山市立博物館展示）］

天正4（1576）年に織田信長が雑賀の宮郷（社家郷）、中郷、南郷に宛てた朱印状。この三組は信長側の味方についたとされています。





雑賀城跡（養珠寺）

「続紀伊風土記」によると、孫一の父・鈴木佐太夫が築城したとされており、現在は妙見山と呼ばれています。小高い丘からは和歌浦湾が一望できる絶景が広がります。司馬遼太郎の小説「尻くらえ孫市」にも雑賀城の描写があります。

和歌山市和歌浦中3丁目1-11
アクセス／JR和歌山駅もしくは南海和歌山市駅から
和歌山バス「和歌浦」停下車すぐ　駐車場／あり（無料）



小雑賀攻防戦の推定図（MAP C-3）



矢宮神社

雑賀衆の産土神で、信長による雑賀攻めの時、孫一をはじめ雑賀衆が必勝を祈願したという逸話が残されています。信長の大軍を押し返したことを祝って孫一たちが踊ったとされる「雑賀踊り」は現在も和歌祭の演目として伝わっています。

和歌山市関戸1丁目5-27　TEL.073-444-0668
アクセス／JR和歌山駅もしくは南海和歌山市駅から
和歌山バス「秋葉山」停下車、徒歩約5分
駐車場／あり（無料）



主祭神は神武東征の際、神武天皇を導いたとされる八咫烏命。「勝ち神様」とも呼ばれ、多くの信仰をあつめています。







弥勒寺山城跡（秋葉山公園）

鷺森別院ができるまでの間「雑賀御坊」として紀伊国における一向宗徒の信仰の中心で、雑賀攻めの際には雑賀衆の本陣になりました。山頂からは周辺を見渡すことができ、顕如上人の碑が建てられています。

和歌山市秋葉町14
アクセス／JR和歌山駅もしくは南海和歌山市駅から
和歌山バス「秋葉山」停下車すぐ
駐車場／なし



鉄錆地雑賀鉢兜

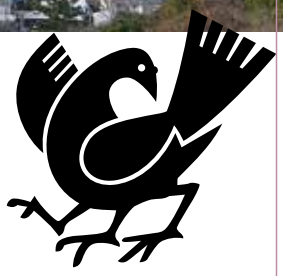
［和歌山市指定文化財（和歌山市立博物館蔵）］

「紀州宇治住　雑賀吉久作」の在銘があり、雑賀荘で製作された兜。鉢の四方には四天王、前面には日輪を金銀で象嵌（ぞうがん）しており、勇ましい雑賀衆を彷彿とさせます。

謎多き、雑賀衆のリーダー

鈴木孫一（雑賀孫一）

※後の文献では「孫市」とも記載



天下布武をめざす織田信長に対して、「戦国最強の鉄砲集団」といわれた鉄砲衆を率いて何度も戦い、そのほとんどの戦に勝利したと伝えられている雑賀衆の中心人物。大坂（石山）本願寺の要請を受け、畿内を中心に反織田の立場で参戦し、信長による雑賀攻めの際には、数万の軍勢を率いた信長軍をわずかな手勢で撃退したという記録が残されています。本能寺の変の後に消息が途絶えますが、さまざまな逸話が残されている謎の多い人物。現在でも和歌山市内で「孫市まつり」が開催され、その活躍ぶりが後世へと伝えられています。









来迎寺（MAP G-9）

太田城の本丸があったと伝わる寺院。境内には太田城跡の碑や、紀州攻めで命を落とした戦没者慰霊碑、太田左近の妻「砂」のものと伝わる小さな墓があります。近隣には籠城した戦死者の首を埋葬した塚の一つである「小山塚」があります。

和歌山市太田2丁目3-7　TEL.073-471-0490
アクセス／JR和歌山駅東口から徒歩約8分
駐車場／なし

秀吉とのし烈な攻防

和歌山市 JR和歌山駅周辺
消えぬ反骨の魂と太田城水攻め

天正13（1585）年3月、約10万とも言われている大軍を発した羽柴秀吉は、紀州へ向けて進軍を開始しました。従軍した武将は、弟の羽柴秀長、宇喜多秀家、大谷吉継、浅野長政らに加え、小西行長や小早川隆景の水軍も含めた大規模なものでした。紀州もろとも和泉国で秀吉軍に対峙した雑賀・根来は壊滅的な打撃を受け、太田城（和歌山市）へと逃げ延びました。城に立て籠もったのは、一揆の残党、農民、女・子どもと合わせておよそ5000人。この時、雑賀衆の一部は秀吉と手を結び、根来寺も焼かれ、太田城は孤立無援の状況でしたが、徹底抗戦の構えを見せました。

秀吉は、太田城に攻撃を仕掛けますが、容易に攻めきれないと判断し、備中高松城を攻める際に用いた「水攻め」を敢行。太田城は1カ月あまり必死に抵抗しますが、秀吉側の和睦案を受け入れ、主だった首将や一族など53人が自決して開城。秀吉は紀州攻めの副将として参陣していた弟の羽柴秀長に紀伊国を与え、支配者としました。ここにおよそ100年もの間、紀州の地で自由を求めて戦い続けた雑賀衆は終えんを迎えたのです。



総光寺由来并太田城水責図
［和歌山市指定文化財（江戸時代初期 和歌山市 惣光寺蔵）］
絵図の上部には総光寺の縁起。
下部には太田城水攻めの様子が色彩豊かに描かれています。



太田城水攻めの推定図（MAP B-3）

日本三大水攻めの1つ「太田城水攻め」

戦国時代の宣教師「ルイス・フロイス」は太田城を「この城は一つの市の如きもので、雑賀の財宝は悉くここに集め、根来ならびに雑賀の主だった諸将等もここにいた。軍需品・兵士及び糧食は、非常に多量で、日本の常食である米のみでも20万俵を超えたということである。而してこの城ははなはだ強固で、四方に十分の備えがあったので、突撃によって攻め入れることは困難とされた。」と表しています。

そこで秀吉は、まず紀の川の水をせき止め、城から300メートル離れた当時の鉄砲の射程距離外の周囲に堤防を構築。堤は全長5キロメートル程度。高さは最大で13メートルほどにおよび、集まった人夫はのべ16万人。付近の土砂を掻き上げるだけの作業ですが、和泉・紀伊両国の百姓を動員し、各大名に工事を分担させる「割普請」で行われたため、工事はわずか5日間の突貫工事で完成したと伝えられています。その後、灌漑用水をひき込み、水攻めを開始すると浮き城のようになり、城内は水浸しになりました。太田城の水攻めは、三大水攻めの中で最も大規模であったと言われています。



太田城水攻め堤跡［県指定史跡］（MAP F-9）

太田城水攻めの際に築かれた堤防の跡です。発掘調査により、現存する土盛は幅約24m、長さ約66m、高さは隣接する水田との比高から約2.6mあることが確認されています。また、内側が高く、外側に向かって傾斜するように盛土が行われていることが明らかになりました。

和歌山市出水　アクセス／JR和歌山駅東口から徒歩約20分　駐車場／なし



玄通寺（MAP G-9）

来迎寺のすぐそばにあり、太田城跡とされている寺院。山門近くにある大イチョウの木は樹齢約400年を誇り、和歌山市指定保存緑に指定されています。市特有の青石を使用した壁面も見どころです。

和歌山市太田2丁目3-3
アクセス／JR和歌山駅東口から徒歩約8分
駐車場／あり（無料）

秀吉勢から最後まで民を守り抜く

太田左近宗正 おおたさこんむねまさ （MAP G-9）

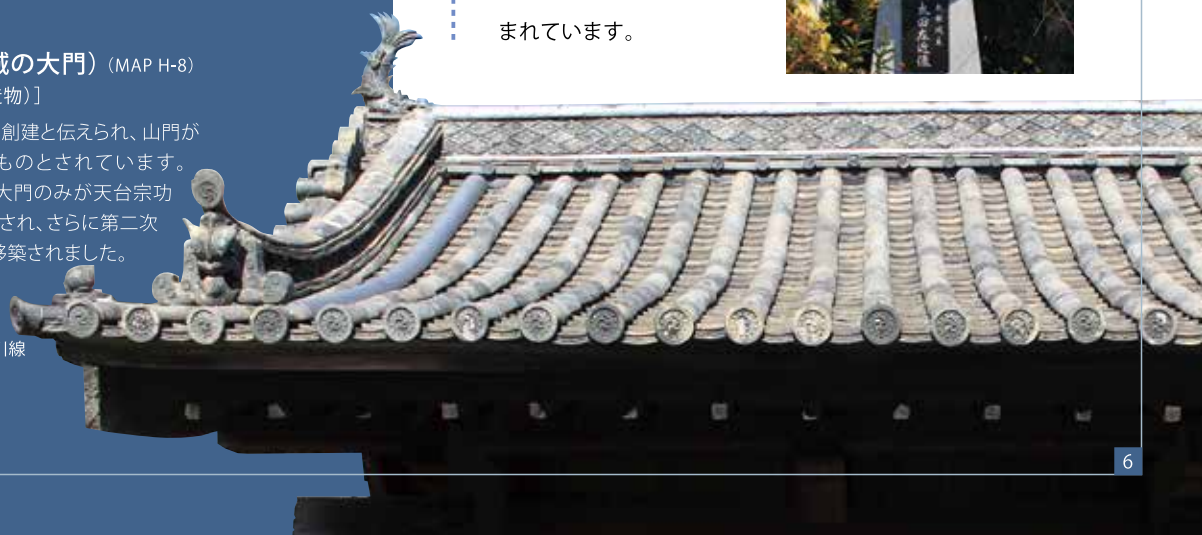
太田城に籠城し1カ月にもわたり必死に抵抗した大将格の太田左近宗正は、秀吉側の蜂須賀正勝のもとに使いをやり、自らの命と引き替えに百姓たちの助命を嘆願したといいます。このとき、秀吉方から百姓は武器を置くことを命令した禁制が発せられましたが、後に全国的に行われた「刀狩り令」の先駆けと言われています。現在のJR和歌山駅東口ロータリーには石像が建立されており「中世紀州の在地土豪の気風を集約した人物といえるだろう」と刻まれています。



大立寺の山門（太田城の大門）（MAP H-8）
［和歌山市指定文化財（建造物）］

文禄年間（安土桃山時代）の創建と伝えられ、山門が太田城の大門を移築したものとされています。太田城水攻めに遭った後、大門のみが天台宗功徳寺（和歌山市吹屋町）に移され、さらに第二次世界大戦後、現在の位置に移築されました。

和歌山市橋向丁5
TEL.073-422-8605
アクセス／わかやま電鐵貴志川線
田中口駅下車、徒歩約10分
駐車場／あり（無料）



もっと深く知る

雑賀衆、豊臣家ゆかりの地を巡る





忍者が天守閣前まで車椅子でご案内!(無料)
問い合わせ先／城プロジェクト
TEL.080-1437-4171

史跡　和歌山城 (MAP H-6)

天正13(1585)年、羽柴秀吉の命により、弟の秀長が築城しました。主な奉行として城造りを任されたのは、城普請の名人といわれる藤堂高虎です。秀長はその後大和郡山を本拠にしたため、重臣の桑山重晴が城代を務めました。関ヶ原の合戦(1600年)後は、浅野幸長が城主となり、元和5(1619)年、徳川家康の10男頼宣が入城し、55万5千石の御三家の1つ紀州徳川家が成立。二の丸西部・砂の丸・南の丸を増築し、ほぼ現在の和歌山城の姿となりました。昭和6(1931)年に国の史跡に指定され、長く親しまれています。

和歌山市一番丁3　TEL.073-422-8979(和歌山城天守閣)
天守閣入場料金／大人410円、小人200円
開館時間／9:00～17:30(入館は17:00まで)
休み／12月29日～12月31日
アクセス／JR和歌山駅、南海和歌山市駅から和歌山バス「和歌山城前」停または「市役所前」停下車すぐ　駐車場／あり(有料)

豊臣・桑山期の和歌山城

「紀州の青石」と呼ばれる緑色片岩(結晶片岩の1つ)を中心とした自然石をそのまま積み上げる「野面積み」が、豊臣・桑山期における築城の特徴です。城がそびえ立つ虎伏山頂上から山裾にかけて多く分布する結晶片岩による野面積みの石垣は主に豊臣・桑山期のものと考えられており、築石同士の隙間が大きく、凹凸が目立ちます。城内に現存する石垣の種類、積み方から時代の変遷を感じてください。



天守台石垣
築城時に積まれた和歌山城のなかでも最も古い石垣と考えられています。各所に転用石(石塔など)が使用されています。



鶴の渓の石垣
天守台石垣と比べると大ぶりな結晶片岩を用いた野面積み石垣です。



石垣の変遷がわかる場所
山の斜面に沿って積まれた野面積みの石垣に、打ち込みハギの石垣(17世紀前半)が後で貼り付けられた様子がわかります。

お城の立ち寄りスポット



豊臣家や和歌山城にまつわるオリジナルのグッズが揃っています





お天守茶屋 (MAP H-6)

昔、天守閣は和歌山弁で「おてんす」と呼ばれていたことにちなみ名付けられた売店。和歌山の素材を用いたメニューや土産品を販売しています。目の前にそびえ立つ天守閣を眺めながら、お殿様気分でお楽しみください。

和歌山市一番丁3 天守閣前　TEL.073-488-7640
営業時間／10:00～17:00
年中無休(荒天の場合を除く)
※お天守団子(お茶つき)350円 ほか
(ラストオーダーは15:30)



本願寺鷺森別院 (MAP F-6)

浄土真宗本願寺派別院。文明8(1476)年本願寺蓮如によって冷水浦(海南市)に創建。その後、黒江(海南市)・秋葉山(和歌山市)と移転。永禄6(1563)年に現在の地に移り、「雑賀御坊」として紀伊における一向宗布教活動の拠点を担いました。雑賀の一向宗徒の信仰の中心で、大坂本願寺を逃れた顕如を迎え入れました。

和歌山市鷺ノ森1　TEL.073-422-4677
アクセス／南海和歌山市駅から徒歩約10分
駐車場／あり(無料)



紀三井寺 (MAP C-3)

宝亀元(770)年、唐僧・為光上人により開基された古刹。秀吉による紀州攻めが紀三井寺に迫るちょうどその頃、山内にある観音堂に仕えていた春子という女性が白狐の姿となり、敵の軍営に赴き命を顧みず紀三井寺の安堵を懇請。先鋒の将だった羽柴秀長から「焼き討ち禁制」の書状を得て、紀三井寺を戦火から救ったとされる伝承があります。境内にある三社権現の隣には春子稲荷が祀られており、伝説をモチーフとした壁画が描かれています。



和歌山市紀三井寺1201　TEL.073-444-1002
アクセス／JR和歌山駅、南海和歌山市駅から和歌山バス「紀三井寺」停下車、徒歩約10分
JR和歌山駅より紀勢本線(きのくに線)「紀三井寺」駅下車、徒歩約10分　駐車場／あり(有料)

雑賀衆を詳しく知るならこちら



和歌山市立博物館 (MAP G-5)

常設展では「鉄砲と雑賀衆」をテーマとした貴重な資料を展示し、中世の和歌山市を学ぶことができます。

和歌山市湊本町3丁目2　TEL.073-423-0003
開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)
入館料／一般・大学生100円、高校生以下無料
※特別展開催期間中は別料金
休館日／月曜、祝日の翌日(月曜が祝日の場合その翌日)、12月29日～1月3日
アクセス／南海和歌山市駅から徒歩約5分
駐車場／あり(有料)



平井歴史資料室 (MAP A-3)

織田信長らと戦った雑賀衆の歴史を詳細に解説。雑賀鉢兜や火縄銃の複製品は、実際に手に取り撮影もできます。

和歌山市平井72-1
(和歌山市平井ふれあいセンター内)
TEL.073-488-9111
開館時間／9:00～17:00
休館日／日曜、祝日、12月29日～1月3日　入館無料
アクセス／南海電鉄紀ノ川駅下車、徒歩約12分
駐車場／あり(無料)



太田城に想いを馳せて…



太田城 御城印 (MAP G-9)

御城印の背景は「紀伊名所図会－太田城水攻の所」を参考に、令和期に再構成した創作意匠です。

販売場所／和歌山市観光交流センター(わかちか広場内)
営業時間／8:30～19:00
※日祝は～17:15



わかやま歴史館 (MAP H-6)

1階は和歌山市観光土産品センター、2階の歴史展示室で和歌山城の豊富な史資料を展示しています。「わかやまの歴史絵巻」コーナーでは、雑賀の時代から紀州平定、和歌山城築城、紀州藩成立などを絵図や古文書、出土遺物などから多角的に紹介しています。

和歌山市一番丁3　TEL.073-435-1044　開館時間／9:00～17:30(入館は17:00まで)
入場料／大人(高校生含む)100円、小人(小・中学生)無料　※和歌山城天守閣との共通入場券もあり
アクセス／JR和歌山駅もしくは南海和歌山市駅から和歌山バス「市役所前」停下車すぐ
休館日／12月29日～31日

歴史と伝統文化が息づく

ご当地グルメ





和歌山ラーメン

地元では昔から「中華そば」と呼ばれている和歌山ラーメンは、まろやかな豚骨醤油味スープが特徴。醤油風味が強い味わいと、豚骨風味が強い味わいの2種類があります。早なれ寿司、玉子を一緒に食べるのが地元流です。

なれ寿司・早なれ寿司

塩漬けにしたサバを酢飯にのせ、アセの葉でくるんで発酵させる郷土寿司です。「早なれ寿司」は主に和歌山ラーメンが食べられる店舗にあります。ほど良い酸味が豚骨醤油味を引き締めて相性抜群です。 ※写真は早なれ寿司

和歌山ラーメンが食べられる店舗情報はこちらから





観光案内所　公営駐車場



しらす丼

和歌山市の近海はしらすの漁獲が多く、和歌浦湾が漁場として有名です。生しらすや釜揚げしらすを使った郷土料理は地域で親しまれており、特にしらす丼が人気です。

和歌山市のご当地グルメ情報はこちらから



伝統和菓子

創業1461年、和歌山に移り400年余りの歴史を誇る和菓子店が手がける菓子は、創業時の製法を守る煉羊羹や紀州徳川家御用達の本ノ字饅頭など、歴史と伝統が織りなす味わいを堪能できます。

「太閤秀吉献上羊羹」は、秀吉がひらいた茶会の引き出物として用いられた逸話の残る蒸し羊羹。当時の味を再現した逸品です。※要予約、発送対応可
販売場所／近鉄百貨店 和歌山店B1F（MAP G-9）
総本家 駿河屋善右衛門

和歌山の土産品が豊富に揃う!



和歌山市観光土産品センター（MAP H-6）

戦国時代に関するグッズをはじめ、地元産のお土産が充実！　定番のお菓子や生産トップクラスの紀州南高梅、発祥の地として有名な醤油、伝統工芸品など豊富に揃っています。

和歌山市一番丁3（わかやま歴史館1F）
TEL.073-435-1184
営業時間／3月～11月 9:00～18:00、
12月～2月 9:00～17:00
アクセス／JR和歌山駅もしくは南海和歌山市駅から
和歌山バス「市役所前」停下車
定休日／12月29日～1月3日



『和歌山で巡ろう！秀吉・秀長ゆかりの地』

お城インスタグラマーのKAORIさんと歴史学者の平山優先生が、信長・秀吉による紀州攻めや太田城水攻めの舞台、和歌山城の見どころ、歴史背景などを深堀り解説。聖地巡礼の参考にぜひご覧ください！

動画公開中！





ACCESS

電車で

- 新大阪 → 地下鉄御堂筋線 約15分 → なんば → 南海本線（特急サザン・急行）約1時間 → 南海和歌山市駅
- 新大阪 → 特急くろしお 約1時間 → JR和歌山駅
- 関西国際空港 → 南海空港線 約10分 → 泉佐野 → 南海本線 約30分 → 南海和歌山市駅
- 関西国際空港 → JR関空快速 約10分 → 日根野 → JR阪和線 約30分 → JR和歌山駅
- 関西国際空港 → リムジンバス（和歌山バス／関西空港交通）約40分 → JR和歌山駅
- 大阪国際空港（伊丹）→ バス 約25分 → 新大阪 → 特急くろしお 約1時間 → JR和歌山駅
- 大阪国際空港（伊丹）→ バス 約30分 → なんば → 南海本線（特急サザン・急行）約1時間 → 南海和歌山市駅

車で

- ●京都から（所要時間 約1時間40分）
  京都市内 → 第二京阪道路 → 門真JCT → 近畿自動車道 → 松原JCT → 阪和自動車道 → 泉佐野JCT → 阪和自動車道 → 和歌山IC
- ●大阪から（所要時間 約1時間20分）
  大阪市内 → 阪神高速道路 → 松原JCT → 阪和自動車道 → 泉佐野JCT → 阪和自動車道 → 和歌山IC
- ●関西国際空港から（所要時間 約40分）
  関西国際空港 → 関西空港自動車道 → 泉佐野JCT → 阪和自動車道 → 和歌山IC

和歌山市観光案内所

観光交流センター　TEL.073-422-5831

［営業時間］8:30～19:00 ※日祝は8:30～17:15　［定 休 日］年末年始（12/29～1/3）
［アクセス］JR和歌山駅中央改札口を出てすぐのエスカレーターを降りた「わかちか広場」内。手荷物一時預かり可（有料）

和歌山市観光案内所（和歌山城）　TEL.073-435-1184

［営業時間］3月～11月 9:00～18:00　12月～2月 9:00～17:00　［定 休 日］年末年始（12/29～1/3）
［アクセス］JR和歌山駅または南海和歌山市駅から和歌山バス「市役所前」停下車すぐ、
和歌山城観光バス駐車場の西側、わかやま歴史館1F

南海和歌山市駅観光案内所　TEL.073-432-0010

［営業時間］9:00～21:00　［定 休 日］年中無休
［アクセス］南海和歌山市駅下車すぐ、キーノ和歌山1F 和歌山市民図書館内

和歌山市 観光課
〒640-8511 和歌山県和歌山市七番丁23 TEL.073-435-1234（直通）

和歌山市　観光　検索

和歌山市観光サイト「わかやまあそび」　和歌山市観光課 公式X　和歌山市観光課 公式Instagram　太田・黒田遺跡周辺 文化財マップ